

第1学年 総合的な探究の時間 学習指導案

千葉県立柏陵高等学校

教諭 浅野稜太

1. 単元名 「プロジェクトH ～柏駅清掃プログラム～」

2. 単元の目標

○自分たちが生活している地域では、どのようなまちづくりが行われているのか、その文化的・歴史的背景を知り、多くの世代に伝えられるようにまとめることができる。
(知識及び技能)

○自分自身の経験や親の世代、さらにその上の世代の体験談を通して、市役所や図書館に貯蔵されている資料の歴史的背景のみならず、文化的背景についても幅広く考えたり、友人間で意見や情報を共有したり、学年全体に自分の言葉で伝えたりすることができる。(思考力・判断力・表現力等)

○積極的に地域のイベントやプログラムに関係のある人とコミュニケーションを取ったり、自らイベントに参加したりすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「柏まつりの歴史」を教材として取り上げる。

本校のダンス部が毎年柏まつりに参加させてもらっている関係で、外部との連携が可能である。総合的な探究の時間で学年集会を行い、市の職員や柏まつりの運営団体の方からお話をいただく機会を設け、柏まつりの歴史や運営にあたっての責任感、課題などを知り、自分たちがまちづくりの一端を担っているという社会参画の意欲を高めることが期待される。

さらに校内のみではなく、外部との連携にあたって、コミュニケーションスキルはもちろん、他者との連携を必須とするため、人とのつながりや関係性を深めることも大いに期待される。

このことを通して、自分たちの生活している地域でどのようなまちづくりの活動が行われているのかを深く知るとともに、得た知識から実際に行動に移すために活動内容を提案したり、自分自身が清掃活動を行ったりと、地域貢献の意識を持って活動をすることができるようになる。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、中学校から上がってきたばかりであるため、柏市や学校付近の地域をまだよく知らない生徒が多数在籍している。

しかし、柏まつりという大きなイベントには多くの生徒が参加した経験があり、参加した多くの生徒がそのイベントについて興味を持っている。

文化的・歴史的背景を学び、現在まで続いてきた柏まつりをよりよいものに作り上げていくために、課題発見や友人との対話を通して自分たちで何か1つ活動を行うことで地域に貢献するという意欲が高まることが期待される。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、千葉県柏市で毎年行われている柏まつりの情報を掲示する。過去から現在にかけて祭りの内容に変化はあるものの、軸となっている部分は変わっておらず、その背景にはどのような歴史的・文化的背景があるのかに気づかせる。

また、本校には毎年柏まつりに招待されているダンス部がいるため、運営団体の方をゲストティーチャーとしてお招きすることが可能である。その中で地域に対する思いや柏まつり続けるにあたっての責任感などを知ってもらい、自分たちには何ができるかという意欲を持たせたい。

その中で、同年代のみならず、教員や市の職員、運営団体など、多くの世代の方と話し合い、意見を共有し、自身や他者の考えや計画を実行できるか否かを協議することと、可能であるならば準備から実行まで計画的に進められるように努める。例えば柏まつりであれば、現在はダンス部という部活動のみがイベントに参加させてもらっているの、授業での連携ができるように進め、高校だけでなく、地域の小・中学校とも連携をするなど、より多くの人の意見から進められるようにしたい。

最終的に、自分たちでまとめた課題を解決するための計画から実行まで行い、その中で運営する責任感や終了後の達成感、また地域との連携でのコミュニケーション力の向上などが得られるように進めたい。そして、今後も地域貢献に対する活動に興味を持って過ごしてもらえようとする。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性 … 柏まつりと言っても、その内容には様々なイベントや出展があり、多くの考え方を知り、学ぶことができるということ。

連携性 … 地域をクリーンにさせるためには、市の職員や運営団体の方々だけでなく、老若男女問わずに全体で活動していくことが大切であるということ。

責任性 … 地域をクリーンにするために、自身の行動や他者の行動を考え、実際に行動に移していくこと、また自分自身が関わっているという責任感を持つことが大切であるということ。

本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

柏まつりの歴史を学び、過去から現在、未来にかけての需要と供給を理解し、よりよいまちづくりの一端をいかに担うかを計画する。

他者と協力する態度

柏まつりというイベントにフォーカスし、地域をクリーンにさせる取り組みを学び、よりよいまちづくりをするために同年代のみならず、市の職員や運営団体の方々と協力する態度を養う。

進んで参加する態度

自分たちができることを他者任せではなく、意欲的に取り組むことによって、地域貢献しようとする態度を養う。

本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

自分たちの世代だけでなく、今を生きているすべての方々がよりよい時間をこの地域で過ごせるように、協力してまちづくりに励むことが大切であるということ。

人権・文化を尊重する

長年続いているイベントをよりよいものにするために、過去の取り組みから未来に向けての計画を知り、イベントの内容のみならず、歴史や文化を尊重する必要性があるということ。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

自分たちだけが楽しみ、幸福感を得るだけでなく、将来においても全世代が楽しい、幸せであると感じられるかについて着目する。

達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 6 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準

(7)知識及び技能	(4)思考力・判断力・表現力等	(9)主体的に学習に取り組む態度
①自分たちが生活している地域では、どのようなまちづくりが行われているのか、その文化的・歴史的背景を理解している。 ②学んだり、調べたりしたことを自分自身の言葉でまとめる技術が身についている。	①様々な情報を基に、歴史的背景のみならず、文化的背景についても幅広く考えることができる。 ②友人同士で意見や情報を共有したり、学年全体に自分の言葉で課題や対策を伝えたりすることができる。	①積極的に地域のイベントやプログラムに関係のある人とコミュニケーションを取ったり、自らイベントに参加したりする意志がみられる。 ②他者と協議を重ねることによって、自分たちにできることを模索しようとする。

5. 単元の指導計画（全 11 時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
1 柏まつりの歴史(クラス) ・ダンス部が柏まつりで講演している映像を流し、本校と柏まつりの連携性を知る。 ・柏まつりの歴史という柏市のウェブサイトから、当初のまつりがどういうものだったのか、現在との差がどうかを比較し、意見を共有しあう。	○ダンス部の動画の放映と関係性について知る。 その後、柏市のウェブサイトにある、柏まつりの歴史を通して、現在の柏まつりがどのようにして出来上がっているのかを考えさせる。 最後に協議の中で出た意見や質問をストックしておく。	イ① 思・判・表 ウ② 主体的
2 運営団体からのお話(学年) ・なぜ柏まつりはここまで大きなイベントになったのか。 ・以前あったイベントで今はないイベントとその理由はなにか。 など	○ダンス部の関係から、市の職員 or 柏まつりの運営団体、場合によってはどちらからも話を聞く。対面が望ましいが、場合によっては zoom などのオンラインミーティングも活用する。	ア①、② 知・技 イ①、② 思・判・表

3 アンケートを取ろう(クラス) ・消費者側の求めるものはなにか、運営側ができることはなにかを考えつつ、多くの世代にアンケートを作成、実施する。 ・実施後、集計機能で結果を確認。実施できるもの、すべきものなど、項目ごとに分ける。 4 自分達ができること(クラス) ・まとめたアンケートの内容を基にクラス内でも班に分かれ協議をする。最終的にクラスで1つ課題解決できることをまとめる。	○紙媒体や Forms など、アンケート機能を活用させ、校内のみならず、地域の小・中学校などにアンケートをお願いする 結果はある程度こちらでまとめておき、自分たちのクラスで何かできること、すべきことがあるかを項目ごとにまとめさせる。 ○アンケートでまとめた内容を協議させ、グループ毎にまとめさせる。その後、クラス内で出た課題解決案について考え、1つ実施に向けてサポートする。 (案については運営団体や市の職員と密に連絡を取り、今後の活動にあたってのサポートを教職員がする。)	ウ② 主体的
5 準備をする(クラス 4時間) ・前回まとめた案を基に、具体的に何からすべきかを順を追って書き出す。またクラス内の役割分担を決め、役割ごとに準備を進める。 ・実際に打ち合わせに参加し、今後の流れを聞き、実際に活動できるように準備を進める。 ・実際に校内(クラスや学年間)で予行練習を行い、当日の参加に落ち着いて対応不ができるように準備する。	○生徒が実際に活動できるように教職員が裏で手を回して動けるようにしておく。特に、ダンス部顧問が参加している打ち合わせに参加できるようにも動けるといい。(実際厳しければオンラインと事前報告、事後連絡で対応する。)	ア② 知・技 イ② 思・判・表 ウ①、② 主体的
10 柏まつり! ・実際に参加、運営に携わる。	○実際に参加をさせ、活動をサポートする。	ウ① 主体的

11 振り返り（クラス～全校） ・当日起きた出来事を話し合い、自分たちの中でうまくいったこと、もっと直した方がいいところを話し合う。またその意見を学校内だけでなく、運営団体や市の職員にも共有し、次年度につながるようにする。 ・実際にやった内容について、活動発表として全校集会を実施する。 ・お礼も兼ねて運営団体や市の職員の方にあいさつをする。 ・壁新聞のようなものやムービーを作成し、次年度につなげられるようにモノを残す。	○クラス内で自分たちの活動の振り返りさせ、次年度につなげる、また本人たちが地域の活動に対して興味を持った状態でいられるように支援する。（例として、学年新聞のようなものを作成、校内に掲示をするなど。） 活動報告の場から、自分たちのしてきたことの大きさ、責任感、達成感を感じてもらいたい。 お礼の方法は対面が望ましいが、電話、オンラインミーティング等の場合もあり。 単発で終わらないように、壁新聞のようなものやムービーを作成し、学校で保管、場合によっては駅や商業施設にも協力をしてもらう。	ア② 知・技 イ② 思・判・表
---	--	---------------------------------------